2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	社会福祉科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	高齢者福祉		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	2年		学期及び曜時限	前期　月曜2限	教室名	501教室
担当教員	松原　千加子	実務経験とその関連資格	社会福祉協議会、居宅介護支援事業所に勤務。現在、精神科クリニックにて相談援助業務に従事。 社会福祉士・精神保健福祉士			

《授業科目における学習内容》

高齢者の生活を理解するために、高齢者に特徴的な健康に関する知識を理解する。その上で、専門職がどのような視点で支援を行うべきか、対象者や場面による違いを踏まえた支援の方法について理解していく。

《成績評価の方法と基準》

定期テスト 70点　　出席点 20点　　平常点(授業貢献度) 10点　　(100点満点)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書:高齢者福祉　中央法規出版

《授業外における学習方法》

高齢者を取り巻く環境は、大きく変動しています。
新聞やニュース、書籍などで情報を取り入れるようにしてください。

《履修に当たっての留意点》

高齢者を取り巻く環境は、大きく変動しています。常に、新聞やニュース、書籍などで情報を取り入れるようにしてください。
分からない事があれば、授業外の時間でも尋ねてください。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の心身の特性を理解し、説明できるようになる。	高齢者福祉(中央法規)	教科書　該当箇所に目を通す。
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション　・　高齢者理解		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の定義について説明できるようになる。	高齢者福祉(中央法規)	教科書　該当箇所に目を通す。
		各コマにおける授業予定	高齢者の定義と特性		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の定義を踏まえ、高齢者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について説明できるようになる。	高齢者福祉(中央法規)	教科書　該当箇所に目を通す。
		各コマにおける授業予定	高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会環境		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	少子高齢社会の理解とともに、高齢者を取り巻く環境を理解し、説明することができる。	高齢者福祉(中央法規)	教科書　該当箇所に目を通す。
		各コマにおける授業予定	少子高齢社会と高齢者		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者福祉政策の歴史について、措置から契約制度に変化した理由を説明することができる	高齢者福祉(中央法規)	教科書　該当箇所に目を通す。
		各コマにおける授業予定	高齢者福祉の歴史①		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者観の変遷について説明できるようになる。	高齢者福祉(中央法規)	教科書　該当箇所に目を通す。
		各コマにおける授業予定	高齢者福祉の歴史②		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	老人福祉法について説明できるようになる。	高齢者福祉(中央法規)	教科書　該当箇所に目を通す。
		各コマにおける授業予定	高齢者に対する法制度①		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者医療制度について説明できるようになる。	高齢者福祉(中央法規)	教科書　該当箇所に目を通す。
		各コマにおける授業予定	高齢者に対する法制度②		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者に対する法制度と支援の仕組みについて説明できるようになる。	高齢者福祉(中央法規)	教科書　該当箇所に目を通す。
		各コマにおける授業予定	高齢者に対する法制度③		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割について説明できるようになる。	高齢者福祉(中央法規)	教科書　該当箇所に目を通す。
		各コマにおける授業予定	高齢者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢期における生活課題を踏まえて、社会福祉士としての適切な支援のあり方について説明できるようになる。	高齢者福祉(中央法規)	教科書　該当箇所に目を通す。
		各コマにおける授業予定	高齢者と家族等に対する支援の実際		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護保険制度のサービス体系について説明することができるようになる。	高齢者福祉(中央法規)	教科書　該当箇所に目を通す。
		各コマにおける授業予定	介護保険制度①		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護保険制度について、利用を希望する人が実際にサービス提供を受けるまでの流れを説明することができるようになる。	高齢者福祉(中央法規)	教科書　該当箇所に目を通す。
		各コマにおける授業予定	介護保険制度②		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域包括支援センターの組織体系と役割について説明できるようになる。	高齢者福祉(中央法規)	教科書　該当箇所に目を通す。
		各コマにおける授業予定	地域包括支援センターの組織体系と役割		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者福祉の概要について説明できるようになる。	高齢者福祉(中央法規)	教科書　該当箇所に目を通す。
		各コマにおける授業予定	まとめ		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	社会福祉科		科目区分	専門分野	授業の方法	演習
科目名	福祉マネジメント演習Ⅰ(基礎)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(1)　時間(単位)
対象学年	2年　地域福祉専攻		学期及び曜時限	後期	教室名	1104教室
担当教員	山田　健太	実務経験とその関連資格	【実務経験】 病院(急性期・回復期)医療ソーシャルワーカー、通所リハビリテーション支援相談員 【資格】 社会福祉士			

《授業科目における学習内容》

学内におけるイベント企画を通じて、人・モノ・金・情報・時間の活用術を実践的に習得する。

《成績評価の方法と基準》

平常点10点(授業貢献度)、出席点20点、定期テスト70点(100点満点)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

組織心理学 見るだけノート(宝島社)、ビジネスフレームワーク 見るだけノート(宝島社)

《授業外における学習方法》

グループで活動する際に、人・モノ・金・情報・時間の要素がどのように関連しているかを意識し、リーダーシップを発揮してみてください。

《履修に当たっての留意点》

福祉サービスの組織と経営にもつながる科目です。主体的に企画に参加し、実践的に学びを深めていきましょう。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	人・モノ・金・情報・時間の要素を基本に置いたマネジメントについて説明できるようになる。	テキスト 配布資料	該当する章のテキストを読んでおく
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション～マネジメントの振り返り～		
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	前期学内イベントの概要を把握し、役割分担ができるようになる。	テキスト 配布資料	該当する章のテキストを読んでおく
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション～イベント企画の概要～		
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	新入生歓迎会の計画が立案できるようになる。	テキスト 配布資料	該当する章のテキストを読んでおく
		各コマにおける授業予定	イベント企画①～新入生歓迎会の計画～		
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	新入生歓迎会の任せられたパートについて実践できるようになる。	テキスト 配布資料	該当する章のテキストを読んでおく
		各コマにおける授業予定	イベント企画①～新入生歓迎会の実行～		
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	新入生歓迎会の評価ができるようになる。	テキスト 配布資料	該当する章のテキストを読んでおく
		各コマにおける授業予定	イベント企画①～新入生歓迎会の評価～		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	新入生歓迎会の改善を行い、次年度へ引き継ぐことができるようになる。	テキスト 配布資料	該当する章のテキストを読んでおく
		各コマにおける授業予定	イベント企画①～新入生歓迎会の改善～		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	こども食堂の計画が立案できるようになる。	テキスト 配布資料	該当する章のテキストを読んでおく
		各コマにおける授業予定	イベント企画②～こども食堂の計画～		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	こども食堂の運営ができるようになる。	テキスト 配布資料	該当する章のテキストを読んでおく
		各コマにおける授業予定	イベント企画②～こども食堂の実行～		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	こども食堂の評価ができるようになる。	テキスト 配布資料	該当する章のテキストを読んでおく
		各コマにおける授業予定	イベント企画②～こども食堂の評価～		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	こども食堂の改善を行い、次クールに引き継ぐことができるようになる。	テキスト 配布資料	該当する章のテキストを読んでおく
		各コマにおける授業予定	イベント企画②～こども食堂の改善～		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	レクリエーション交流会のブース出展について計画立案ができるようになる。	テキスト 配布資料	該当する章のテキストを読んでおく
		各コマにおける授業予定	イベント企画③～レクリエーション交流会の計画～		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	レクリエーション交流会でブース運営ができるようになる。	テキスト 配布資料	該当する章のテキストを読んでおく
		各コマにおける授業予定	イベント企画③～レクリエーション交流会の実行～		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	レクリエーション交流会全体及び、チームで企画したブース運営の評価ができるようになる。	テキスト 配布資料	該当する章のテキストを読んでおく
		各コマにおける授業予定	イベント企画③～レクリエーション交流会の評価～		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	チームで企画したブース運営の改善を行い、次年度に引き継ぐことができるようになる。	テキスト 配布資料	該当する章のテキストを読んでおく
		各コマにおける授業予定	イベント企画③～レクリエーション交流会の改善～		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	人・モノ・金・情報・時間の要素を基本に置いた基本的なマネジメントができるようになる。	テキスト 配布資料	該当する章のテキストを読んでおく
		各コマにおける授業予定	総括		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	社会福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	心理学と心理的支援	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15　(2)　時間(単位)
対象学年	2年	学期及び曜時限	前期　金曜3限	教室名	501教室
担当教員	上村　茜	実務経験とその関連資格	関西国際大学大学院にて修士課程を修了。臨床心理士、公認心理師の資格を所持し、カウンセラーとして勤務している。		

《授業科目における学習内容》

心理学の基礎・応用を学び、人間の行動のメカニズムを理解できるようになること。
他者の意見を尊重しながら自身の意見を主張することができるようになること。
以上のことが期待される。

《成績評価の方法と基準》

筆記試験70%、平常点10%、出席点20%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書:心理学理論と心理的支援　中央法規出版

《授業外における学習方法》

授業内容の復習が必要

《履修に当たっての留意点》

積極的な授業参加　1年生の心理学の内容を復習しておくこと　心理学と自身の日常生活との関連について意識すること

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	授業の内容や流れについて把握し、どのようなことを学んでいくのか説明できるようになる。	テキスト、PC、プロジェクター	教科書に目を通す
		各コマにおける授業予定	オリエンテーションを行う。		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	人の基本的なこころの仕組みについて説明できるようになる。	テキスト、PC、プロジェクター	教科書に目を通す
		各コマにおける授業予定	感覚、神経などの人の基本的な心の仕組みについて講義する。		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	性格、人格の様々な考え方について知り、説明できるようになる。	テキスト、PC、プロジェクター	教科書に目を通す
		各コマにおける授業予定	性格、人格に関する様々な考え方を講義する。		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	発達段階から人のこころを捉えることができるようになる。	テキスト、PC、プロジェクター	教科書に目を通す
		各コマにおける授業予定	乳幼児期から老年期までの心理的発達の特徴を講義する。－①		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	発達段階から人のこころを捉えることができるようになる。	テキスト、PC、プロジェクター	教科書に目を通す
		各コマにおける授業予定	乳幼児期から老年期までの心理的発達の特徴を講義する。－②		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	心の不調について幅広い視点で捉えることができるようになる。	テキスト、PC、プロジェクター	教科書に目を通す
		各コマにおける授業予定	不安や抑うつなどの代表的な状態について講義をする。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	司法分野での心理的支援について学び、説明できるようになる。	テキスト、PC、プロジェクター	教科書に目を通す
		各コマにおける授業予定	司法現場での心理学的支援について講義を行う。－①		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	司法分野での心理的支援について学び、説明できるようになる。	テキスト、PC、プロジェクター	教科書に目を通す
		各コマにおける授業予定	司法現場での心理学的支援について講義を行う。－②		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	ストレスの仕組みと心身の影響を理解し、説明できるようになる。	テキスト、PC、プロジェクター	教科書に目を通す
		各コマにおける授業予定	ストレス反応やその対処法などについて講義をする。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	心理検査について知り、説明できるようになる。	テキスト、PC、プロジェクター	教科書に目を通す
		各コマにおける授業予定	臨床現場で使用する心理検査について講義する。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	心理療法・アプローチを知り、説明できるようになる。	テキスト、PC、プロジェクター	教科書に目を通す
		各コマにおける授業予定	代表的な心理療法やアプローチについて講義を行う。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	子ども、家庭への心理的支援について学び、説明できるようになる。	テキスト、PC、プロジェクター	教科書に目を通す
		各コマにおける授業予定	子どもや家庭に向けた心理的支援について事例を用いて講義する。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者への心理的支援について学び、説明できるようになる。	テキスト、PC、プロジェクター	教科書に目を通す
		各コマにおける授業予定	高齢者に向けた心理的支援について事例を用いて講義する。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	障がい者への心理的支援について学び、説明できるようになる。	テキスト、PC、プロジェクター	教科書に目を通す
		各コマにおける授業予定	障がい者に向けた心理的支援について事例を用いて講義する。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	これまでの内容をきちんと理解し、説明できるようになる。	テキスト、PC、プロジェクター	教科書に目を通す
		各コマにおける授業予定	まとめ		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	社会福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	演習
科目名	手話	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(1)　時間(単位)
対象学年	2年	学期及び曜時限	前期　金曜2限	教室名	501教室
担当教員	近藤　眞由美 (ろうあ会館講師)	実務経験とその関連資格	大阪府・大阪市手話通訳者		

《授業科目における学習内容》

聴覚障害者を理解し、聴覚障害者のコミュニケーション方法を学ぶ。
聴覚障害者の日常生活の一助となる事を目的とする。

《成績評価の方法と基準》

実技を伴う授業なので、授業態度・実技試験を重視する。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

「手話奉仕員養成テキスト　手話を学ぼう手話で話そう」

《授業外における学習方法》

関連書籍など適宜紹介する

《履修に当たっての留意点》

手話は聴覚障害者がもつ言語であり、コミュニケーションには欠かせない手段です。言いたい事を伝える、相手の言いたい事を理論しようとする、
伝える事の大切さを学びます。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	手話で簡単なやり取りができるようになる。	テキスト	テキストを一読しておく
		各コマにおける授業予定	名前・趣味・誕生日・家族など自己紹介ができているか復習		
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	手話で簡単なやり取りができるようになる。	テキスト	テキストの該当箇所を復習しておく
		各コマにおける授業予定	住んでいる所・交通手段など方向性をもった手話表現の復習		
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	手話で簡単なやり取りができるようになる。	テキスト	テキストの該当箇所を復習しておく
		各コマにおける授業予定	第10講座　一日の出来事の手話表現の復習		
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	手話で簡単なやり取りができるようになる。	テキスト	テキストの該当箇所を復習しておく
		各コマにおける授業予定	第13講座　行事のお知らせをペアで作成・発表する		
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	手話で簡単なやり取りができるようになる。	テキスト	テキストの該当箇所を復習しておく
		各コマにおける授業予定	第13講座　行事のお知らせをペアで作成・発表する		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	手話で簡単なやり取りができるようになる。	テキスト	テキストの該当箇所を復習しておく
		各コマにおける授業予定	第12講座　四季を通した一年の出来事の手話表現を学ぶ		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	手話で簡単なやり取りができるようになる。	テキスト	テキストの該当箇所を復習しておく
		各コマにおける授業予定	第14講座　旅行のお知らせをペアで作成・発表する		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	手話で簡単なやり取りができるようになる。	テキスト	テキストの該当箇所を復習しておく
		各コマにおける授業予定	いつ・どこで・何を　など疑問詞を交わえながら手話で会話してみる		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	手話で簡単なやり取りができるようになる。	テキスト	テキストの該当箇所を復習しておく
		各コマにおける授業予定	第16講座　病院での会話を基に、病院で困る事とは何か考える		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	手話で簡単なやり取りができるようになる。	テキスト	テキストの該当箇所を復習しておく
		各コマにおける授業予定	第15講座　方向の使い方を復習しながら会話をする		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	手話で簡単な会話ができるようになる。	テキスト	テキストの該当箇所を復習しておく
		各コマにおける授業予定	第17講座　疑問詞の使い方、場所の表し方を復習しながら会話をする		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	手話で簡単な会話ができるようになる。	テキスト	テキストの該当箇所を復習しておく
		各コマにおける授業予定	会話文を一組になってそれぞれが発表してチェックする		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	手話で簡単な会話ができるようになる。	テキスト	テキストの該当箇所を復習しておく
		各コマにおける授業予定	空間のイメージ化を学びながら身振りも交わえながら会話をする		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	手話で簡単な会話ができるようになる。	テキスト	テキストの該当箇所を復習しておく
		各コマにおける授業予定	これまでの振り返り		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	手話で簡単な会話ができるようになる。	テキスト	テキストの該当箇所を復習しておく
		各コマにおける授業予定	まとめ　試験に向けて		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	社会福祉科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	貧困に対する支援		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	2年		学期及び曜時限	後期	教室名	501教室
担当教員	林　明奈	実務経験とその関連資格	ホームレス自立支援センターにおいて低所得者に対する支援に従事。社会福祉士。			

《授業科目における学習内容》

貧困の定義および概念について、さまざまな視点から理解するとともに、低所得者階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際について理解を深める。また、生活保護制度や低所得者に対する支援の実際を学び、低所得者に対する支援を行う基礎を身につける

《成績評価の方法と基準》

・定期試験　70%　出席評価　20%　平常評価点　10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

・最新 社会福祉士養成講座 4 貧困に対する支援 第2版 中央法規
・必要に応じてその都度関連する資料を配布

《授業外における学習方法》

生活保護や低所得者に対する支援に関するニュースや情報に普段から関心を持ち、それらの問題について自分なりに考えてください。また、配布資料や教科書などで必ず復習をし、理解を深めるようにしてください。

《履修に当たっての留意点》

・授業において個人ワークやグループワークを行いますので、積極的に参加してください。
・分からなかった点や疑問点はそのままにせず、担当教員に質問するようにしてください。

授業の方法		内容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第16回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第17回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第18回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第19回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第20回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第22回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第23回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第24回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第25回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第26回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第27回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第28回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第29回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第30回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	社会福祉科		科目区分	専門分野	授業の方法	演習
科目名	ソーシャルワーク実習指導(社会)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(1)　時間(単位)
対象学年	2年		学期及び曜時限	前期　金曜2限	教室名	501教室
担当教員	山田　健太・木寺　由美	実務経験とその関連資格	【山田】 社会福祉士　医療機関にて医療ソーシャルワーカーとして従事			

《授業科目における学習内容》

ソーシャルワーク実習の意義について理解し、社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う。また自己覚知を深め、自身の課題を捉え、専門職として研鑽していけるようにする。ジェネリックなソーシャルワーク、スペシフィックなソーシャルワークについて理解を深める。実習計画、実習総括レポートの作成を行う。

《成績評価の方法と基準》

平常点(授業貢献度) 10点　　出席点　20点　　定期テスト　70点　　(100点満点)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

最新　社会福祉士養成講座⑧ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習(社会専門)　中央法規出版
必要に応じて資料等を配布します。

《授業外における学習方法》

ソーシャルワークの理論の体系について復習しておくこと。
社会福祉士が配置されている機関について調べておくこと。

《履修に当たっての留意点》

現場で起きる事象すべてが学びになるという主体的な姿勢で実習に挑み、自身の活動をしっかりと振り返ってください。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習及び実習指導の意義と目的を理解することができる	レジュメ配布	講義、演習、実習で学習する知識と技術を相互に関連付けて考え説明することができる バイスティックの7原則、生活モデル、ストレングスモデル、治療モデルの視点
		各コマにおける授業予定	実習事前準備から報告会までの流れ 関係書類の説明		
第2回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	スーパービジョンの意義、目的、機能の説明、実習におけるスーパービジョン関係と契約について理解することができる。	レジュメ配布	スーパービジョンの3機能を復習する
		各コマにおける授業予定	実習の展開過程(実習前、中、後)に行われるスーパービジョンの内容と方法について スーパーバイザーとスーパーバイジーの役割について		
第3回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	実習の構造を理解し、実習のプロセスと実習に係るシステムを説明できる	レジュメ、PC	法定実習の実施されている実習機関の法的位置づけを復習する
		各コマにおける授業予定	実習指導における評価に関する事項 新カリキュラムに対応した実習計画書の作成項目の学習		
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	実習におけるリスクマネジメントを理解し、実践することができる	レジュメ配布	個人情報保護法の概要 プライバシー保護の考え方について予習する
		各コマにおける授業予定	実習生の権利と義務、個人情報の保護とプライバシーの権利、ハラスメントのリスク		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	現場の社会福祉士から実習への心得を学び、現場のイメージを持つことができるようになる。	レジュメ配布	現地集合するための交通経路の下調べをする
		各コマにおける授業予定	ソーシャルワーカーの実践現場を学ぶ。 現役社会福祉士から、実習に臨む姿勢について学ぶ。		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	現場のクライエントや社会の問題を把握することができる。	レジュメ配布	各専門職の役割を復習する
		各コマにおける授業予定	ソーシャルワーカーの実践現場を学ぶ。 現役社会福祉士から、実習に臨む姿勢について学ぶ。		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	実習生同士の共感的理解を得ることができるようになる。	レジュメ配布	見学施設等のソーシャルワーク機能を復習する
		各コマにおける授業予定	実習日誌の様式を用いて、レポート作成を行う。		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	実習生同士の共感的理解を得ることができるようになる。	レジュメ配布	見学やゲストスピーカーから学んだことを共有するため作成したレポートを持参する
		各コマにおける授業予定	ピアスーパービジョン体験		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	実習施設・機関の法的根拠や種別を調べ整理できるようになる。	レジュメ配布	実習計画表の作成を自宅学習で継続する
		各コマにおける授業予定	実習計画書の作成を行う 実習機関・施設の職員配置、利用者、住民の状況を調べて説明をする		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	地域アセスメントを実施し、地域の課題や問題解決に向けた目標を設定できるようになる。	レジュメ配布	実習計画表の作成を自宅学習で継続する
		各コマにおける授業予定	地域アセスメントの意義や方法、活用可能なツール（SWOT分析など）についての学習 地域の中にある社会資源と利用者のライフサイクルについての学習		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解ができるようになる。	レジュメ配布	実習計画表の作成を自宅学習で継続する 個人票の作成に向けて自分の強み、社会福祉士を目指した理由を振り返る
		各コマにおける授業予定	ソーシャルワーク実習の意義と支援者像に沿った個人票の作成方法を学習する		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解ができるようになる。	レジュメ配布	実習計画表の作成と個人票の作成を自宅学習で継続する
		各コマにおける授業予定	具体的な問題解決の事例を踏まえて連携や協働の必要性を説明のために、自己の知識と考察の内容を書き分けて、言語化することを学習する		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	立案した実習計画書を担当教員に説明し、スーパービジョンを踏まえて修正できるようになる。	レジュメ配布	実習計画表の作成を自宅学習で継続する
		各コマにおける授業予定	実習事前オリエンテーションに参加するための準備 実習計画書の校正と清書、実習日誌の構成内容と記入方法の確認		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	自身の学びをプレゼンテーションすることができるようになる。	レジュメ配布	事前オリエンテーションに参加するための交通経路の確認、事前訪問の電話をかけ、日程調整をする
		各コマにおける授業予定	校章授与式に向けての準備と実習計画書の仕上げ 実習先で必要とされるソーシャルワーカーの価値規範と倫理、知識技術の再確認		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	これまで準備してきたことを確認し、不安感を軽減し、自分らしく実習に臨むことができるようになる。	レジュメ配布 実習日誌、関連書類を持参する	倫理綱領を熟読 実習要綱を確認
		各コマにおける授業予定	実習直前指導 実習における基本姿勢の確認 お礼状の書き方		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	社会福祉学科		科目区分	基礎分野	授業の方法	講義実習
科目名	情報科学Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	2年		学期及び曜時限	後期	教室名	大阪ハイテクPCルーム
担当教員	BSC	実務経験とその関連資格				

《授業科目における学習内容》

この授業では、これからの社会生活に必要とされるデータサイエンスの知識・技能のうち、基礎的な統計手法について、Excelを用いてを習得する。

《成績評価の方法と基準》

出席(20%)、平常点(10%)、課題・小テスト点(70%)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

「コンピュータキャリアトレーニング」※イーラーニングコンテンツ
対面授業、オンライン(ライブ)、オンデマンドの3つの授業形態(ハイフレックス型授業)で、テキストや動画を見ながら学生が独学できるようデザインされた教材です。講義は基礎分野と応用分野に分類されています。

《授業外における学習方法》

自宅等にインターネットにつながったPCがあれば、イーラーニングで自習できます。
欠席した場合は次の週までに課題を済ませて下さい。

《履修に当たっての留意点》

出席することが一番重要ですので、欠席しないように受講してください。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	Canvaを使って資料を作成できる	CANVA活用(CANVA登録)	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	生成AIとの会話/生成AIで自己紹介を作成/Canvaの紹介/Canvaの使い方/Canvaで資料作成		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	CANVAを使ってビジュアルガイドを作成できる1	ビジュアルガイド作成1	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	法的責任(PL法)/画像生成、正しい画像の使い方/多面的に探る、整える、深める/正確性の確認/Canvaで資料作成(ガイドブック)/ワーク(共有)		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	CANVAを使ってビジュアルガイドを作成できる2	ビジュアルガイド作成2	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	法的責任(PL法)/画像生成、正しい画像の使い方/多面的に探る、整える、深める/正確性の確認/Canvaで資料作成(ガイドブック)/ワーク(共有)		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	CANVAを使ってビジュアルガイドを作成できる3	ビジュアルガイド作成3	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	法的責任(PL法)/画像生成、正しい画像の使い方/多面的に探る、整える、深める/正確性の確認/Canvaで資料作成(ガイドブック)/ワーク(共有)		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	AIを使ってショート動画を作成できる	ショート動画作成	イーラーニングテキストで講義の内容を確認することができます。
		各コマにおける授業予定	リール台本をCopilotで制作/Canvaで動画作成		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	生成AIを使って自分らしさが伝わる自己PR文と志望動機が作成できる	自己PR作成	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	自己PRと志望動機の作成/AIで評価		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	生成AIを使って情報を効率よく検索・整理する力を身につけることができる	情報収集と要約スキル	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	生成AIで情報収集/NotebookLMで要約		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	データの特徴を数値化できる （平均、分散、標準偏差）	初級データサイエンス（統計編）1	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	平均と分散の意味と求め方/標準偏差の意味と求め方		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	データの特徴を視覚化できる1 （基本統計量を求める、ヒストグラムの作成）	初級データサイエンス（統計編）2	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	分析ツールの使用/基本統計量の算出/度数分布表（ヒストグラム）の作成/標準偏差のグラフ図示		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	データの特徴を視覚化できる2 （散布図、相関係数を求める）	初級データサイエンス（統計編）3	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	散布図を作成し、相関関係の有無を視覚的に表す/相関係数の算出		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	統計的検定を実施できる	初級データサイエンス（統計編）4	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	母集団・標本・抽出について/統計的検定の手法について/t検定（一対の標本、等分散、不等分散）/F検定		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	統計的手法を選択して利用できる	初級データサイエンス（統計編）5	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	データの分類（質的データ、量的データ）、検定後の結論の書き方、統計手法の復習		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	分散分析の意味とその使い分けについて理解できる	初級データサイエンス（統計編）6	イーラーニングテキストでこれまでの講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	1元配置の分散分析（対応のない因子の場合）/2元配置の分散分析（対応のある因子の場合）/独立性の検定（カイ2乗検定）/死亡率・生存率・罹患率の算出		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	重回帰分析の意味を理解できる	初級データサイエンス（統計編）7	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	重回帰分析/復習（相関・度数分布表（ヒストグラム）・t検定）		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	初級データサイエンス（統計編）で習ったことを実践できる	初級データサイエンス（統計編）まとめ	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	初級データサイエンス（統計編）復習問題の実施		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	社会福祉科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	高齢者福祉		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	2年		学期及び曜時限	前期　月曜2限	教室名	501教室
担当教員	松原　千加子	実務経験とその関連資格	社会福祉協議会、居宅介護支援事業所に勤務。現在、精神科クリニックにて相談援助業務に従事。 社会福祉士・精神保健福祉士			

《授業科目における学習内容》

高齢者の生活を理解するために、高齢者に特徴的な健康に関する知識を理解する。その上で、専門職がどのような視点で支援を行うべきか、対象者や場面による違いを踏まえた支援の方法について理解していく。

《成績評価の方法と基準》

定期テスト 70点　　出席点 20点　　平常点(授業貢献度) 10点　　(100点満点)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書:高齢者福祉　中央法規出版

《授業外における学習方法》

高齢者を取り巻く環境は、大きく変動しています。
新聞やニュース、書籍などで情報を取り入れるようにしてください。

《履修に当たっての留意点》

高齢者を取り巻く環境は、大きく変動しています。常に、新聞やニュース、書籍などで情報を取り入れるようにしてください。
分からない事があれば、授業外の時間でも尋ねてください。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の心身の特性を理解し、説明できるようになる。	高齢者福祉(中央法規)	教科書　該当箇所に目を通す。
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション　・　高齢者理解		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の定義について説明できるようになる。	高齢者福祉(中央法規)	教科書　該当箇所に目を通す。
		各コマにおける授業予定	高齢者の定義と特性		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の定義を踏まえ、高齢者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について説明できるようになる。	高齢者福祉(中央法規)	教科書　該当箇所に目を通す。
		各コマにおける授業予定	高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会環境		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	少子高齢社会の理解とともに、高齢者を取り巻く環境を理解し、説明することができる。	高齢者福祉(中央法規)	教科書　該当箇所に目を通す。
		各コマにおける授業予定	少子高齢社会と高齢者		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者福祉政策の歴史について、措置から契約制度に変化した理由を説明することができる	高齢者福祉(中央法規)	教科書　該当箇所に目を通す。
		各コマにおける授業予定	高齢者福祉の歴史①		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者観の変遷について説明できるようになる。	高齢者福祉(中央法規)	教科書　該当箇所に目を通す。
		各コマにおける授業予定	高齢者福祉の歴史②		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	老人福祉法について説明できるようになる。	高齢者福祉(中央法規)	教科書　該当箇所に目を通す。
		各コマにおける授業予定	高齢者に対する法制度①		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者医療制度について説明できるようになる。	高齢者福祉(中央法規)	教科書　該当箇所に目を通す。
		各コマにおける授業予定	高齢者に対する法制度②		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者に対する法制度と支援の仕組みについて説明できるようになる。	高齢者福祉(中央法規)	教科書　該当箇所に目を通す。
		各コマにおける授業予定	高齢者に対する法制度③		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割について説明できるようになる。	高齢者福祉(中央法規)	教科書　該当箇所に目を通す。
		各コマにおける授業予定	高齢者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢期における生活課題を踏まえて、社会福祉士としての適切な支援のあり方について説明できるようになる。	高齢者福祉(中央法規)	教科書　該当箇所に目を通す。
		各コマにおける授業予定	高齢者と家族等に対する支援の実際		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護保険制度のサービス体系について説明することができるようになる。	高齢者福祉(中央法規)	教科書　該当箇所に目を通す。
		各コマにおける授業予定	介護保険制度①		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護保険制度について、利用を希望する人が実際にサービス提供を受けるまでの流れを説明することができるようになる。	高齢者福祉(中央法規)	教科書　該当箇所に目を通す。
		各コマにおける授業予定	介護保険制度②		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域包括支援センターの組織体系と役割について説明できるようになる。	高齢者福祉(中央法規)	教科書　該当箇所に目を通す。
		各コマにおける授業予定	地域包括支援センターの組織体系と役割		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者福祉の概要について説明できるようになる。	高齢者福祉(中央法規)	教科書　該当箇所に目を通す。
		各コマにおける授業予定	まとめ		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	社会福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	演習
科目名	ボランティア演習	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対象学年	2・3年 地域福祉専攻	学期及び曜時限	後期	教室名	教室など
担当教員	木寺 由美・鈴木 香	実務経験とその関連資格			

《授業科目における学習内容》

さまざまな体験を通じて視野を広げ、社会で役立つスキルを身につける。考える力や発表能力を養う。
縦割りの特色を活かし、他学年との交流を図る。企画力や自発性を引き出す。

《成績評価の方法と基準》

平常点(授業態度) 10点　　出席点 20点　　定期テスト 70点 (100点満点)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

レジュメ、活動報告

《授業外における学習方法》

さまざまなボランティアに参加してみる　関心を持ったテーマについて調べる

《履修に当たっての留意点》

できるだけ遅刻・欠席をしないこと。

授業の方法		内容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	後期の授業終了後の成長した自分をイメージできるようになる。	レジュメ 昨年の研修報告書	前期の授業を振り返っておく
		各コマにおける授業予定	後期の抱負①		
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	後期の授業終了後の成長した自分をイメージできるようになる。	レジュメ 昨年の研修報告書	前期の授業を振り返っておく
		各コマにおける授業予定	後期の抱負②		
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	研修を通じて学んだこと、感じたことを言語化できるようになる。	レジュメ 昨年の研修報告書	宿泊研修の活動記録をまとめておく
		各コマにおける授業予定	一泊研修や基礎実習の報告		
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	研修を通じて学んだこと、感じたことを言語化できるようになる。	レジュメ 昨年の研修報告書	宿泊研修の活動記録をまとめておく
		各コマにおける授業予定	一泊研修や基礎実習の報告		
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	分化交流の企画立案ができる	レジュメ 昨年の活動報告書	分化交流で実践したいことを各自考えておく
		各コマにおける授業予定	アメリカ研修に向けて		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	分化交流の企画立案ができるようになる。	レジュメ 昨年の活動報告書	分化交流で実践したいことを各自考えておく
		各コマにおける授業予定	アメリカ研修に向けて		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	映画を通じて、自身の福祉観を語れるようになる。	PC、プロジェクター、スピーカー	興味を持っている地域活動について調べておく
		各コマにおける授業予定	福祉映画		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	映画を通じて、自身の福祉観を語れるようになる。	PC、プロジェクター、スピーカー	興味を持っている地域活動について調べておく
		各コマにおける授業予定	福祉映画		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	研修を通じて学んだこと、感じたことを言語化できるようになる。	活動報告書	海外研修の活動報告をまとめておく
		各コマにおける授業予定	海外研修報告、アロマケア		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	研修を通じて学んだこと、感じたことを言語化できるようになる。	活動報告書	海外研修の活動報告をまとめておく
		各コマにおける授業予定	海外研修報告、アロマケア		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	地域活動実践と国家試験の学習を結びつけることができるようになる。	レジュメ	地域福祉の理論と方法の国家試験の過去問をJ-webで解く
		各コマにおける授業予定	試験対策		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	地域活動実践と国家試験の学習を結びつけることができるようになる。	レジュメ	地域福祉の理論と方法の国家試験の過去問をJ-webで解く
		各コマにおける授業予定	試験対策		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	社会福祉士に必要な介護技術を理解し、社会福祉士が介護について学ぶ意義について考えを述べることができるようになる。	レジュメ	介護についてテキストで復習しておく
		各コマにおける授業予定	介護の日にちなんで		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	社会福祉士に必要な介護技術を理解し、社会福祉士が介護について学ぶ意義について考えを述べることができるようになる。	レジュメ	介護についてテキストで復習しておく
		各コマにおける授業予定	介護の日にちなんで		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	興味あるテーマでの学びを社会福祉士が実践する技術と結びつけることができるようになる。	レジュメ ワークシート	興味を持っている地域活動について調べておく
		各コマにおける授業予定	リクエストテーマ		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	社会福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	演習
科目名	手話	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(1)　時間(単位)
対象学年	2年	学期及び曜時限	前期　金曜2限	教室名	501教室
担当教員	近藤　眞由美 (ろうあ会館講師)	実務経験とその関連資格	大阪府・大阪市手話通訳者		

《授業科目における学習内容》

聴覚障害者を理解し、聴覚障害者のコミュニケーション方法を学ぶ。
聴覚障害者の日常生活の一助となる事を目的とする。

《成績評価の方法と基準》

実技を伴う授業なので、授業態度・実技試験を重視する。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

「手話奉仕員養成テキスト　手話を学ぼう手話で話そう」

《授業外における学習方法》

関連書籍など適宜紹介する

《履修に当たっての留意点》

手話は聴覚障害者がもつ言語であり、コミュニケーションには欠かせない手段です。言いたい事を伝える、相手の言いたい事を理論しようとする、
伝える事の大切さを学びます。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	手話で簡単なやり取りができるようになる。	テキスト	テキストを一読しておく
		各コマにおける授業予定	名前・趣味・誕生日・家族など自己紹介ができているか復習		
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	手話で簡単なやり取りができるようになる。	テキスト	テキストの該当箇所を復習しておく
		各コマにおける授業予定	住んでいる所・交通手段など方向性をもった手話表現の復習		
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	手話で簡単なやり取りができるようになる。	テキスト	テキストの該当箇所を復習しておく
		各コマにおける授業予定	第10講座　一日の出来事の手話表現の復習		
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	手話で簡単なやり取りができるようになる。	テキスト	テキストの該当箇所を復習しておく
		各コマにおける授業予定	第13講座　行事のお知らせをペアで作成・発表する		
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	手話で簡単なやり取りができるようになる。	テキスト	テキストの該当箇所を復習しておく
		各コマにおける授業予定	第13講座　行事のお知らせをペアで作成・発表する		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	手話で簡単なやり取りができるようになる。	テキスト	テキストの該当箇所を復習しておく
		各コマにおける授業予定	第12講座　四季を通した一年の出来事の手話表現を学ぶ		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	手話で簡単なやり取りができるようになる。	テキスト	テキストの該当箇所を復習しておく
		各コマにおける授業予定	第14講座　旅行のお知らせをペアで作成・発表する		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	手話で簡単なやり取りができるようになる。	テキスト	テキストの該当箇所を復習しておく
		各コマにおける授業予定	いつ・どこで・何を　など疑問詞を交わえながら手話で会話してみる		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	手話で簡単なやり取りができるようになる。	テキスト	テキストの該当箇所を復習しておく
		各コマにおける授業予定	第16講座　病院での会話を基に、病院で困る事とは何か考える		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	手話で簡単なやり取りができるようになる。	テキスト	テキストの該当箇所を復習しておく
		各コマにおける授業予定	第15講座　方向の使い方を復習しながら会話をする		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	手話で簡単な会話ができるようになる。	テキスト	テキストの該当箇所を復習しておく
		各コマにおける授業予定	第17講座　疑問詞の使い方、場所の表し方を復習しながら会話をする		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	手話で簡単な会話ができるようになる。	テキスト	テキストの該当箇所を復習しておく
		各コマにおける授業予定	会話文を一組になってそれぞれが発表してチェックする		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	手話で簡単な会話ができるようになる。	テキスト	テキストの該当箇所を復習しておく
		各コマにおける授業予定	空間のイメージ化を学びながら身振りも交わえながら会話をする		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	手話で簡単な会話ができるようになる。	テキスト	テキストの該当箇所を復習しておく
		各コマにおける授業予定	これまでの振り返り		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	手話で簡単な会話ができるようになる。	テキスト	テキストの該当箇所を復習しておく
		各コマにおける授業予定	まとめ　試験に向けて		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	社会福祉科		科目区分	専門分野	授業の方法	演習
科目名	ソーシャルワーク実習指導(社会福祉士)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(1)　時間(単位)
対象学年	2年		学期及び曜時限	後期	教室名	501教室
担当教員	木寺　由美・山田　健太	実務経験とその関連資格				

《授業科目における学習内容》

ソーシャルワーク実習の意義について理解し、社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う。また自己覚知を深め、自身の課題を捉え、専門職として研鑽していけるようにする。ジェネリックなソーシャルワーク、スペシフィックなソーシャルワークについて理解を深める。実習計画、実習総括レポートの作成を行う。

《成績評価の方法と基準》

平常点(授業貢献度) 10点　　出席点　20点　　定期テスト　70点　　(100点満点)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

最新　社会福祉士養成講座『ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習「社会専門」』
必要に応じて資料等を配布します。

《授業外における学習方法》

相談援助の理論の体系について復習しておくこと。
社会福祉士が配置されている機関について調べておくこと。

《履修に当たっての留意点》

現場で起きる事象すべてが学びになるという主体的な姿勢で実習に挑み、自身の活動をしっかりと振り返ってください。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理できるようになる。	レジュメ配布 各自の実習日誌	実習日誌のコピーや実習先の資料を準備する
		各コマにおける授業予定	自己評価(評価表)と実習指導者による評価表の内容を照らし合わせ、共通点や相違点について確認する		
第2回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	実習報告会に向けた準備に、実習記録と自己課題の振り返りを活用できるようになる。	レジュメ配布	実習日誌のコピーや実習先の資料を準備する
		各コマにおける授業予定	達成できたこと、課題などを個人で確認する作業を行い課題を整理する		
第3回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	実習報告会で、達成目標と行動目標について報告し、自己の成果を共有できるようになる。	レジュメ、PC	法定実習の実施されている実習機関の法的位置づけを復習する
		各コマにおける授業予定	グループ学習において、自己の学習の成果をグループメンバーに説明する		
第4回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	実習報告会で、達成目標と行動目標について報告し、自己の成果を共有できるようになる。	レジュメ、PC	個人情報保護法の概要プライバシー保護の考え方について予習する
		各コマにおける授業予定	グループ学習において、自己の学習の成果をグループメンバーに説明する		
第5回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	実習報告会で、達成目標と行動目標について報告し、自己の成果を共有できるようになる。	レジュメ、PC	現地集合するための交通経路の下調べをする
		各コマにおける授業予定	グループ学習において、自己の学習の成果をグループメンバーに説明する		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	実習報告会で、達成目標と行動目標について報告し、自己の成果を共有できるようになる。	レジュメ配布 実習日誌、関連書類を持参する	各専門職の役割を復習する
		各コマにおける授業予定	グループ学習において、自己の学習の成果をグループメンバーに説明する		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	実習の評価及び全体総括を通じて、自己の目指す支援者像を説明できるようになる。	レジュメ配布 実習日誌、関連書類を持参する	ソーシャルワーク実習の意義の復習をする
		各コマにおける授業予定	評価の意義、目的、方法を説明できる		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	3年次の実習に向けて実習施設・機関の法的根拠や種別を調べ整理できるようになる。	レジュメ配布 実習日誌、関連書類を持参する	ソーシャルワーカーの役割を復習する
		各コマにおける授業予定	実習分野の希望調査　個人票の下書き 健康管理、感染予防の対策の必要性と方法を説明できる		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	実習施設・機関の法的根拠や種別を調べ整理できるようになる。	レジュメ配布 実習日誌、関連書類を持参する	実習計画表の作成を自宅学習で継続する
		各コマにおける授業予定	実習計画書の作成を行う 実習機関・施設の職員配置、利用者、住民の状況を調べて説明をする		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習で関わる他の専門職の基本的な業務と役割を説明できるようになる。	レジュメ配布 実習日誌、関連書類を持参する	実習計画表の作成を自宅学習で継続する
		各コマにおける授業予定	チームにおける社会福祉士の役割・機能を説明することができる 具体的な事例で連携、協力の理解を深める		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域アセスメントを実施し、地域の課題や問題解決に向けた目標を設定できるようになる。	レジュメ配布	実習計画表の作成を自宅学習で継続する 個人票の作成に向けて自分の強み、社会福祉士を目指した理由を振り返る
		各コマにおける授業予定	自分の住まい、地域の中にある社会資源と利用者のライフサイクルについての学習		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解ができるようになる。	レジュメ配布	実習計画表の作成と個人票の作成を自宅学習で継続する
		各コマにおける授業予定	ソーシャルワーク実習の意義と支援者像に沿った個人票の完成		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解ができるようになる。	レジュメ配布	実習計画表の作成を自宅学習で継続する
		各コマにおける授業予定	具体的な問題解決の事例を踏まえて連携や協働の必要性を説明のために、自己の知識と考察の内容を書き分けて、言語化することを学習する		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	自身の学びをプレゼンテーションすることができるようになる。	レジュメ配布	実習施設の地域特性や社会資源を調べるための方法を復習する
		各コマにおける授業予定	作成した事前学習に基づく個人票と計画表を発表し、知識の修正と補充を行い、理解を深める		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	実習先の仮配置に基づいて、実習事前学習を進めることができるようになる。	レジュメ配布 実習日誌、関連書類を持参する	実習施設の運営管理や職員体制、サービス事業内容を調べるための方法を復習する
		各コマにおける授業予定	3年次の実習に向けて、情報を適切に活用・管理する方法を習得する		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	社会福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	マネジメント理論	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	2年　心理福祉専攻・地域福祉専攻	学期及び曜時限	前期　月曜3限	教室名	501教室
担当教員	山田　健太	実務経験とその関連資格	社会福祉士　医療機関にて医療ソーシャルワーカーとして従事		

《授業科目における学習内容》

近代的マネジメントの源流をさかのぼり、組織の目標達成に必要な人・モノ・金・情報・時間の活用術を理論的に習得する。

《成績評価の方法と基準》

平常点10点(授業貢献度)、出席点20点、定期テスト70点(100点満点)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

組織心理学 見るだけノート(宝島社)、ビジネスフレームワーク 見るだけノート(宝島社)

《授業外における学習方法》

グループで活動する際に、人・モノ・金・情報・時間の要素がどのように関連しているかを意識しながら行動してみてください。

《履修に当たっての留意点》

6W2H、PDCAサイクルの考え方を習慣化し、計画的に行動できるように成長していきましょう。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	マネジメントの概要を説明できるようになる。	テキスト 配布資料	該当する章のテキストを読んでおく
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション～マネジメントとは～		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	科学的管理法について説明できるようになる。	テキスト 配布資料	該当する章のテキストを読んでおく
		各コマにおける授業予定	組織心理学について～産業心理学と組織心理学の統合 科学的管理法から人間関係論までの流れ		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	専制型、民主型、放任型それぞれの分類について説明できるようになる。	テキスト 配布資料	該当する章のテキストを読んでおく
		各コマにおける授業予定	リーダーシップ論① リーダーシップの3つの分類		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	特性理論とコンティンジェンシー理論について説明できるようになる。	テキスト 配布資料	該当する章のテキストを読んでおく
		各コマにおける授業予定	リーダーシップ論② 特性理論とコンティンジェンシー理論		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	サーバントリーダーシップとオーセンティックリーダーシップについて説明できるようになる。	テキスト 配布資料	該当する章のテキストを読んでおく
		各コマにおける授業予定	リーダーシップ論③ サーバントリーダーシップとオーセンティックリーダーシップ		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	組織事故について学び、スイスチーズモデルについて説明できるようになる。	テキスト 配布資料	該当する章のテキストを読んでおく
		各コマにおける授業予定	チームのパフォーマンスを最大化するポイント ～JR福知山線列車事故から得た「ほめる」ことの教訓～		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	PDCAサイクルについて説明できるようになる。	テキスト 配布資料	該当する章のテキストを読んでおく
		各コマにおける授業予定	PDCAサイクル～業務を改善するためのサイクルを回す～		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	6W2Hについて説明できるようになる。	テキスト 配布資料	該当する章のテキストを読んでおく
		各コマにおける授業予定	6W2H～8つの問いを用いて問題を特定する～		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	どんな業務を優先させるべきかについて自身の考えを述べることができるようになる。	テキスト 配布資料	該当する章のテキストを読んでおく
		各コマにおける授業予定	業務の優先度～仕事の優先度を決めるキーとなる貢献度とは～		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	意思決定マトリクスについて説明できるようになる。	テキスト 配布資料	該当する章のテキストを読んでおく
		各コマにおける授業予定	意思決定マトリクス～数値化して方針を決定する～		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	マンダラートについて説明できるようになる。	テキスト 配布資料	該当する章のテキストを読んでおく
		各コマにおける授業予定	マンダラート～アイデアを広げるために～		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	SWOT分析について説明できるようになる。	テキスト 配布資料	該当する章のテキストを読んでおく
		各コマにおける授業予定	SWOT分析～チームの強みを明確化する～		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	ガンチャートについて説明できるようになる。	テキスト 配布資料	該当する章のテキストを読んでおく
		各コマにおける授業予定	ガンチャート～スケジュールと人員管理～		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	3H管理について説明できるようになる。	テキスト 配布資料	該当する章のテキストを読んでおく
		各コマにおける授業予定	ハインリヒの法則から考える3H（はじめて、変更、ひさしぶり）管理 ～ヒヤリ・ハットを分析して事故を未然に防ぐ～		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	必要な人・モノ・金・情報・時間の活用術を理論的に説明できるようになる。	テキスト 配布資料	該当する章のテキストを読んでおく
		各コマにおける授業予定	総括		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	社会福祉科		科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
科目名	英会話		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	2年		学期及び曜時限	後期	教室名	501教室
担当教員	ILC講師	実務経験とその関連資格	英語教授に関する資格を保持し、基礎英語や医療英語の教授に関わる。			

《授業科目における学習内容》

主に高校時代に既に学んだ英語の文法や語彙に関する知識の復習と、ネイティブ講師とのスピーキングやリスニング練習を通じ、日常の様々な場面において自分の伝えたいことを自分の言葉で表現する方法を学ぶ。

《成績評価の方法と基準》

1. 定期試験:70%
2. 出席:20%
3. 授業態度:10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

「Speak Now 1」Jack C. Richards/ David Bohlke, Oxford University Press

《授業外における学習方法》

授業を受けるにあたり、中学と高校の英語の復習をしておきましょう。

《履修に当たっての留意点》

受身の姿勢ではなく、自分から発信し、積極的な姿勢で授業に参加してください。
基礎英語を楽しく学びましょう。分からない時は遠慮せずに先生に質問してください。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	初対面の相手に対し、適切な挨拶ができるようになる。	Speak Now	中学・高校までの英語の復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	イントロダクション、プレテスト、 初対面の挨拶～お別れまでの会話		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	自分のこと、相手のことを英語で述べられるようになる。	Speak Now	教科書 L.2&3 を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	L.2&3 自己紹介、友人の紹介、パーソナルインフォメーションに関する一般的な質問に対する受け答え		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	興味のあること・ないことについて述べられるようになる。	Speak Now	教科書 L.5&6 を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	L.5&6 好き・嫌い等の好みについての会話		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	自分の意思を相手に伝えられるようになる。	Speak Now	教科書L.8を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	L.8 意見を尋ねる、意見を述べる。お誘いを受けた際の返答の仕方を学ぶ。		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	周りの人間、自分の性格を伝えられるようになる。	Speak Now	教科書L.9&10を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	L.9&10 家族や性格についての会話		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	ファッションについて話し、相手のファッションについて褒めることができるようになる。	Speak Now	教科書L.11&12を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	L.11＆12 人を褒める＆褒められた際の会話表現を学ぶ。(衣服など)着ているものに関して述べる。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	様々な表現を用いて、時間について説明できるようになる。	Speak Now	教科書L.7,13,14を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	L.7,13&14 時間についての表現方法を学ぶ。日々の習慣について話す＆質問する。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	道案内ができるようになる。	Speak Now	教科書L.19&20を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	L.19&20 道案内をする、場所を尋ねる。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	買い物時の受け答えができるようになる。価格交渉ができるようになる。	Speak Now	教科書L.21&23を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	L.21&23 数やお金の数え方、価格や頻度についての質問や受け答えを学ぶ。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	レストランで料理を注文できるようになる。	Speak Now	教科書L.28を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	L.28 料理の味や材料について＆レストランでのオーダー方法を学ぶ。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	旅行などの経験について話すことができるようになる。	Speak Now	教科書L.29&30を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	L.29&30 過去の出来事について話す＆質問する。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	リアクションを取りながら会話できるようになる。	Speak Now	教科書L.31を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	L.31 自分の体験について話す＆それに対するリアクションや返答方法を学ぶ。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	旅行の予定や将来のことについて述べられるようになる。	Speak Now	教科書L.32を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	L.32 週末や未来の予定について話す。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	学期末試験の復習が自宅でもできるようになる。	Speak Now	教科書(学んだ範囲)の復習を行う。
		各コマにおける授業予定	学期末・総復習を行う。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	本講義内容を理解し、自分の伝えたいことを自分の言葉で表現することができるようになる。	Speak Now	これまでに学んだ教科書、配布プリントをよく読み、理解する。
		各コマにおける授業予定	学期末の総合演習を実施する。		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	社会福祉科	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
科目名	臨床心理学概論	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対象学年	2年生 心理福祉専攻	学期及び曜時限	前期 金曜1限	教室名	501教室
担当教員	上村 茜	実務経験とその関連資格	関西国際大学大学院にて修士課程を修了。臨床心理士、公認心理師の資格を所持し、カウンセラーとして勤務している。		

《授業科目における学習内容》

臨床心理学の基礎を学び、臨床心理学的視点を身に付ける。

《成績評価の方法と基準》

筆記試験70%、平常点10%、出席点20%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書:「図解でわかる臨床心理学」 井上嘉孝/中央法規出版(2003)

《授業外における学習方法》

授業内容の復習が必要

《履修に当たっての留意点》

積極的な授業参加　心理学と自身の日常生活との関連について意識すること

授業の方法		内容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回		授業を通じての到達目標	授業のスケジュール、流れを把握して、どのようなことを学んでいくのか説明できるようになる。	テキスト、PC、プロジェクター	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	オリエンテーションを行う。		
第2回		授業を通じての到達目標	こころの基本的な仕組みついて学び、説明できるようになる。	テキスト、PC、プロジェクター	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	感覚や知覚など基本的なこころの仕組みについて講義する。		
第3回		授業を通じての到達目標	発達段階から人のこころを捉えることができるようになる。	テキスト、PC、プロジェクター	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	乳幼児期から老年期までの心理的発達の特徴を講義する。―①		
第4回		授業を通じての到達目標	発達段階から人のこころを捉えることができるようになる。	テキスト、PC、プロジェクター	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	乳幼児期から老年期までの心理的発達の特徴を講義する。―②		
第5回		授業を通じての到達目標	ストレスの仕組みと心身の影響を理解し、説明できるようになる。	テキスト、PC、プロジェクター	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	ストレス反応やその対処法などについて講義する。		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回		授業を通じての到達目標	心の不調について幅広い視点でとらえることができるようになる。	テキスト、PC、プロジェクター	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	不安や抑うつなどの代表的な状態について講義する。		
第7回		授業を通じての到達目標	精神障害の特徴について理解し説明できるようになる。	テキスト、PC、プロジェクター	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	うつ病、統合失調症などの精神障害について講義する。		
第8回		授業を通じての到達目標	臨床心理学のアセスメントについて知り、説明できるようになる。	テキスト、PC、プロジェクター	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	臨床心理学のアセスメントについて講義する。		
第9回		授業を通じての到達目標	心理検査について知り、説明できるようになる。	テキスト、PC、プロジェクター	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	臨床現場で使用する心理検査について講義する。		
第10回		授業を通じての到達目標	心理療法・アプローチを知り、説明できるようになる。	テキスト、PC、プロジェクター	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	代表的な心理療法やアプローチについて講義を行う。－①		
第11回		授業を通じての到達目標	心理療法・アプローチを知り、説明できるようになる。	テキスト、PC、プロジェクター	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	代表的な心理療法やアプローチについて講義を行う。－②		
第12回		授業を通じての到達目標	カウンセリングの基本的な姿勢を身に付け、実践できるようになる。	テキスト、PC、プロジェクター	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	カウンセリングの傾聴、共感、受容などの基本姿勢について学ぶ。		
第13回		授業を通じての到達目標	臨床心理士、公認心理師の役割について知り、説明できるようになる。	テキスト、PC、プロジェクター	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	実際の現場から臨床心理学的視点と支援について講義を行う。		
第14回		授業を通じての到達目標	事例を通じて心理的支援の視点を身に付け、実践できるようになる。	テキスト、PC、プロジェクター	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	架空事例を用いて、支援の考え方を検討する。		
第15回		授業を通じての到達目標	これまでの内容をきちんと理解し、実践できるようになる。	テキスト、PC、プロジェクター	教科書の関連する項目を読んでおく
		各コマにおける授業予定	まとめ		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	社会福祉科		科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
科目名	福祉英語		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	2年		学期及び曜時限	前期　火曜1限	教室名	501教室
担当教員	小松　真奈美	実務経験とその関連資格	大阪市立大学医学部付属病院にて看護師、りんくう総合医療センターにて医療通訳			

《授業科目における学習内容》

1　福祉分野で使われている基礎的な用語を英語で理解し言えるようにする。
2　日本の福祉施設、簡単な制度について英語で表現できる。
3　医療福祉現場で使われている簡単な英語を聞き取れるようにする。
4　福祉英語検定3・4級に合格する。

《成績評価の方法と基準》

期末試験、授業態度(出席率、ペアワークの参加度、発表)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

福祉英語　(国際教育社)

《授業外における学習方法》

英語が苦手な学生は、単語などを調べるなど予習をしておくこと。

《履修に当たっての留意点》

授業中の居眠り、私語、スマホの使用(単語を調べる時間以外)は禁止。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	英語で簡単な挨拶、自己紹介、他己紹介が出来るようになる。	配布プリント	テキストでLesson1を予習
		各コマにおける授業予定	自己紹介、他己紹介		
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	利用者との面会、自己紹介、施設の案内、体の各部の名称(上半身)が英語で言えるようになる。	教科書・プリント	単語テスト①
		各コマにおける授業予定	Lesson　1　　利用者との面会1		
第3回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	部屋の案内、体の各部の名称(上半身)が英語で言えるようになる。	教科書・プリント	単語テスト②
		各コマにおける授業予定	Lesson　2　　利用者との面会2		
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	食事時間、好き嫌いの有無、症状の表現が英語で言えるようになる。	教科書・プリント	単語テスト③
		各コマにおける授業予定	Lesson　3　　食事時間の説明と好き嫌いの聞き方		
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	食事の介助の表現が英語で言えるようになる。	教科書・プリント	単語テスト④
		各コマにおける授業予定	Lesson　4　　食事介助		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	外国人保護者とのコミュニケーションが出来るようになる。	教科書・プリント	単語テスト⑤
		各コマにおける授業予定	Lesson 5　保育施設にて		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	体温と脈拍の測定、薬剤種類が英語で言えるようになる。	教科書・プリント	単語テスト⑥
		各コマにおける授業予定	Lesson 6　　日課1　体温、脈拍測定		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	血圧測定時、医療器具の名称が英語で説明できるようになる。	教科書・プリント	単語テスト⑦
		各コマにおける授業予定	Lesson 7　日課2　血圧測定		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	右半身が麻痺の患者さんに自力で起き上がれるように介助する時の表現、歩行器具が英語で言えるようになる。	教科書・プリント	単語テスト⑧
		各コマにおける授業予定	Lesson 8　自力で起き上がる手順の説明		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	左半身が麻痺の患者さんに移乗の動作を説明する、車いす部位の名称が英語で言えるようになる。	教科書・プリント	単語テスト⑨
		各コマにおける授業予定	Lesson 9　ベッドから車椅子への移動		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	洗髪時の表現、病気、障害の名称が英語で言えるようになる。	教科書・プリント	単語テスト⑩
		各コマにおける授業予定	Lesson 10　利用者からの要求に応える		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	足浴とマッサージの表現、介護器具が英語で言えるようになる。	教科書・プリント	単語テスト⑪
		各コマにおける授業予定	Lesson 11　足浴とマッサージ		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ミーティングでの英語表現、臓器の名称が英語で言えるようになる。	教科書・プリント	単語テスト⑫
		各コマにおける授業予定	Lesson 12　利用者についての会議		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	福祉英検に向けての対策が出来るようになる。	教科書・プリント	テキスト全体を読み返し復習する
		各コマにおける授業予定	福祉英語　模擬試験		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	この授業で学び得たことの振り返りが出来るようになる。。	教科書・プリント	テキスト全体を読み返し復習する
		各コマにおける授業予定	まとめ		